

1st Japan Rogaining Championships

信州デスティネーションキャンペーン記念

第1回日本ロゲイニング選手権大会

July 15-16, 2017

2017年7月15-16日

Matsumoto JAPAN / 長野県松本市

Program / プログラム



主催 一般社団法人日本ロゲイニング協会

共催 さわやか信州松本フェスティバル組織委員会

後援 松本市、安曇野市、一般社団法人松本観光コンベンション協会、公益社団法人日本オリエンテーリング協会

第1回日本ロゲイニング選手権大会プログラム

開催日: 2017年 7月15日(土) - 7月16日(日)

会場: **松本青年の家**(長野県松本市)

スケジュール

7月15日(土)

08:30 受付開始

10:40 受付終了・地図配付

11:00 開会式・競技説明

12:00 スタート

7月16日(日)

12:00 競技終了

12:30 表彰式

15:00 交流会(会費別途)

重要事項

- この競技は一般の交通ルールや社会マナーを守った上に得点ルールを重ねたものです。交通ルールを守り、安全に競技してください。
- 救急搬送が必要な事故が発生したときは、その場から119番通報してください。携帯電話にあるGPS情報が救急本部に通知されます。そのあと大会本部に知らせてください。
大会本部電話 **090-3333-0893** (木村佳司)

会場アクセス

公共交通機関：JR 篠ノ井線「松本駅」から 6km

- 松本駅から会場まで送迎バスを運行します。

送迎バス時刻表

		松本駅アルプス口発	会場着
往路 1 便	7月 15 日	08:30	08:50
往路 2 便	7月 15 日	10:00	10:20

		会場発	松本駅アルプス口着
復路 1 便	7月 16 日	13:00	13:20
復路 2 便	7月 16 日	17:00	17:20

自家用車駐車場：「松本市東部学校給食センター駐車場」

駐車場は会場から 6km 離れています。無料送迎バスで参加者を会場まで運びます。

当初は会場付近に駐車場を確保する予定でしたが、希望者が多かったため臨時駐車場を確保しそこから送迎バスを運行することにしました。最初に会場にメンバーと荷物を降ろしてから、臨時駐車場に車を停めて、バスで会場入りすることをお勧めします。臨時駐車場の地図はプログラムに記載しています。

駐車場：「松本市東部給食センター駐車場」へのアクセス

- 長野自動車道「梓川スマートインター」（ETC 専用）から 9km。松本トンネル有料道路経由で 15 分。
- 長野自動車道「松本インター」から 7km。当日、松本市街地は道路渋滞が予想されます。

臨時駐車場発着送迎バス時刻表

		臨時駐車場発	会場着
往路 1 便	7月 15 日	08:30	08:45
往路 2 便	7月 15 日	09:00	09:15
往路 3 便	7月 15 日	09:30	09:45
往路 4 便	7月 15 日	10:00	10:15

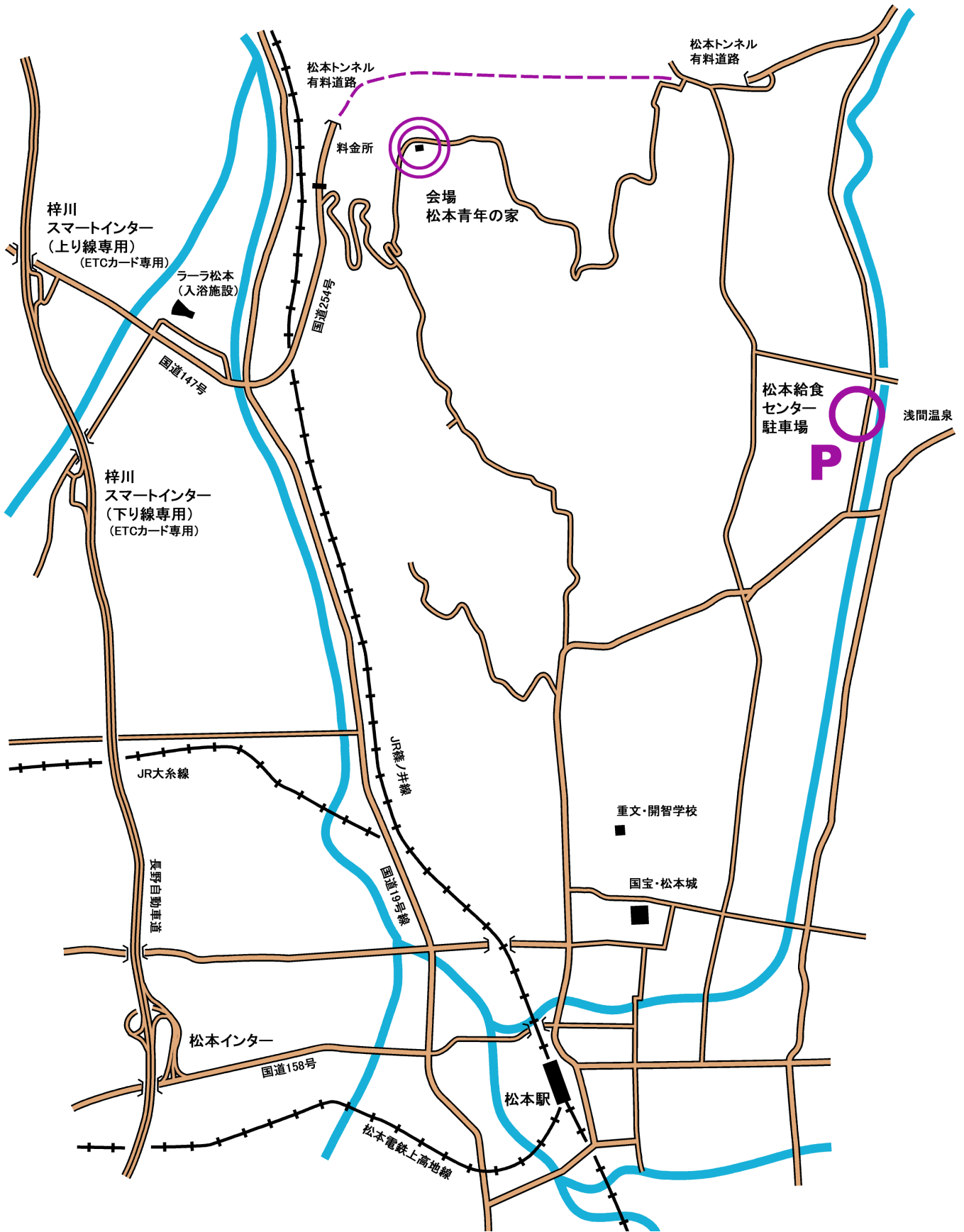
		会場発	臨時駐車場着
復路 1 便	7月 16 日	13:00	13:15
復路 2 便	7月 16 日	13:30	13:45
復路 3 便	7月 16 日	17:00	17:15
復路 4 便	7月 16 日	17:30	17:45

前泊者・後泊者

- 松本青年の家への前泊者、後泊者の自家用車は、松本青年の家駐車場を利用してください。

アクセスマップ

0m 1km



会場案内

会場: 松本青年の家 (長野県松本市島内 8880)

施設	用途	運用
体育館	メイン会場 受付 競技説明 表彰式 会場ハッシュハウス受付	24 時間オープン・土足禁止
講堂 (2F)	荷物室	24 時間オープン・土足禁止
宿泊室 (2F)	男子更衣室	24 時間オープン・土足禁止
宿泊室 (2F)	女子更衣室	24 時間オープン・土足禁止
宿泊室 (2F)	女子休憩室	24 時間オープン・土足禁止
宿泊室 (1F)	男子休憩室	24 時間オープン・土足禁止
浴室 (1F)	ハッシュハウス用シャワー 競技後浴室利用	24 時間オープン・土足禁止
野外炊事場	自前コンロ利用場所	24 時間オープン・土足利用・火の扱いに充分ご注意ください
食堂 (1F)	交流会会場	7月16日(日) 15:00-

競技の流れ

7月15日(土) 8:30-10:40 受付

- 提出物 **参加通知書・誓約書**
同封の「参加通知書・誓約書」にあらかじめご記入の上、受付にご提出ください。
- 配布物
 - ナンバーカード (ひとり 1 枚)
 - SI チップ (ひとり 1 個) (役員によって手首に巻き付けさせていただきます)
 - コントロールカード (ひとり 1 枚) (機器故障時のバックアップ用)
 - ゴム紐 40cm 長 (ひとり 1 本) (コントロールカード固定用)
 - ポリ袋 (ひとり 2 枚)
 - GPS 端末 (1 チームにつき 1 台)
- 交流会参加者は受付にて参加費を集めます。(一人当たり 4,000 円)
- 競技前にコントロールに設置されているフラッグとユニットの見本を会場に展示します。
- 荷物は会場の荷物室に置いておくことができます。ただし荷物の紛失について主催者は責任を持ってません。
- 主催者は貴重品を預かりません。競技中も携帯してください。
- 交通機関や送迎バスの遅れがあったときは、受付時刻を延長することがあります。

10:40 地図配布

- 開会式に先立って地図配布を行います。
- ひとりあたりチャック付きポリ袋 1 セット配布します。中には 5 種類の地図が 1 枚ずつ入っています。
- 交通機関や送迎バスの遅れがあったときでも、地図配布の時刻は変更しません。

11:00 開会式・競技説明

- 簡単な開会式と競技説明を行います。
- プログラムを読んできていただいていることを前提に、変更点と注意点、質疑応答が主な内容となります。
- 公共交通機関で来場する人に配慮した時間に設定しています。

12:00 スタート

- 会場から一斉スタートします。
- スタート前に SI チップの動作チェックを行います。
役員の指示に従って全員必ずチェックを受けてください。
- スタート前に全員で記念撮影を行います。ご協力をお願いします。
- 交通機関や送迎バスの遅れがあったときでも、スタート時刻は変更しません。

競技中の行動

スタートしたら常にチーム全員一緒に行動してください。
コントロールに到達したら、チーム全員の手首に巻かれた SI チップを順番に SI ステーションにパンチしてください。

到着したコントロールでチームメンバー全員が行う最初のパンチ操作をチームリーダーとの時差 1 分以内に行ってください。記録された時刻がチームリーダーと 1 分 1 秒以上の時差がある場合には、チームのコントロール通過を無効とします。この判定は記録されたデータに基づき厳格に行います。特にご注意ください。

SI カードに記録される時刻は、到着コントロールの最初のパンチ動作の時刻だけです。2 回目以降のパンチ動作の時刻は記録されません。

コントロールに到着したら、パンチ動作に入る前にチーム全員が揃っていることを確認して、掛け声とともにパンチ動作することをお勧めします。

すべての計時はチームリーダーの持つ SI チップで行います。他のメンバーの SI チップの記録はコントロール通過やフィニッシュ通過において、チーム全員が一緒に行動しているかどうかの判定に使用します。

競技中：会場ハッシュハウス

会場ハッシュハウスを利用する前に、必ずチーム全員がハッシュハウス到着ユニットをパンチしてください。

会場ハッシュハウスを出発する際には、必ずチーム全員がハッシュハウス出発ユニットをパンチしてください。

会場ハッシュハウスでは、屋内で休むことができます。軽食の補給、飲料の補給が準備されています。

会場ハッシュハウス内にある野外炊飯場にて、各自が持参したコンロを使用することができます。

会場ハッシュハウスでは持ってきた荷物の入替えも可能です。その他の場所で持ってきた荷物への入れ替えは禁止します。

競技途中に食料などを購入することも可能です。

7月16日(日) - 12:00 フィニッシュ

- ・チームは必ず全員揃ってフィニッシュしてください。
- ・会場にフィニッシュステーションを用意します。チームリーダーがフィニッシュステーションをパンチした時刻をフィニッシュ時刻とします。
- ・チームメンバー全員、チームリーダーの 1 分以内にフィニッシュステーションをパンチしてください。これが守られない場合は、チームで最もパンチ時刻の遅い者の時刻をフィニッシュ時刻とさせていただきます。ただし速報はチームリーダーのフィニッシュ時刻を採用します。
- ・SI チップをフィニッシュで回収します。
- ・SI チップを読み取って、得点と回ってきたコントロールの一覧を印刷したシートをお渡ししますので、チェックしてください。なおチームの同一年行動等が守られているかのチェック後に、得点などが変更になることがあります。
- ・競技途中にコントロールユニットの故障に気が付いて、バックアップのコントロールカードを使用した場合は、フィニッシュ役員に申し出てください。このときコントロールカードを役員に提出してください。コントロールカードの提出がない場合は、故障したコントロールは不通過と判定します。

12:30 表彰式

- ・会場では暫定結果にて表彰式を行います。
- ・各クラス上位 3 組を表彰します。(混合、女子、男子)
- ・仮賞状及び賞品をお渡しします。
- ・確定結果は後日発表します。

競技の説明

競技の概要

- ・フィールド内に 50 個のコントロール(目標場所)を設定します。それぞれのコントロールを通過すると得点が与えられます。24 時間の制限時間内にどれだけ得点を得ることができるかを競います。
- ・コントロールを示す地図を競技前に配布します。地図を見ながら、作戦を考え、自分たちの力で巡ってください。
- ・通過証明方式は SI チップへの電子的記録によります。
- ・この競技は一般の交通ルールや社会マナーを守った上に得点ルールを重ねたものです。交通ルールを守り、安全に競技してください。
- ・グループはスタートしてからフィニッシュするまで必ず一緒に行動してください。原則としてすべてのメンバー間の距離が 30m 以内になるように行動してください。(肉声が届く範囲を目安としています) ただしチームがハッシュハウス内にいる場合はこの限りではありません。

フィールド

- ・長野県松本市・安曇野市
最高標高 1550m 最低標高 520m
松本市、安曇野市の市街地、公園、里山がフィールドになります。
- ・地図上にて通行禁止で示すトンネルがあります。競技でこのトンネルを利用することを禁止します。このトンネルは自動車の交通量が多く歩道がありません。
- ・フィールドの標高が低い地域に多数の河川と用水路があります。河川と用水路の渡渉は禁止します。水量が多く渡渉は危険です。
- ・フィールド内には自動車専用道路があります。ここは通行禁止です。地図に示しています。
- ・フィールド内では時間を区切って通行を禁止する主要林道があります。この区間では林業伐採作業が行われていて、7月15日 16:30 まで通行禁止です。区間と時間を地図に記載しています。

- ・里山には多数の昆虫と野生動物が生息しています。危険なのは蜂、ヘビ、イノシシ、クマです。里山に入るときは、熊鈴を鳴らし、イノシシ、クマなどの大型哺乳類に競技者の存在を知らせるようにしてください。
- ・フィールド内の森と耕作地の境目に防獣柵（鹿柵）があります。小道に沿ったゲートを通して通過できます。ゲートは通常は閉まっていますが、手で開けることができます。通過の際は、ゲートを開閉して通過してください。通過後は必ず閉めてください。
防獣柵を開けたまま閉め忘れると、野生動物（主に鹿）による農作物への食害が出る恐れがあります。
防獣柵の通過（ゲートの開閉）に、およそ1分間かかります。
獣柵ならびにゲートの位置は地図に表記していません。
- ・里山の中に水場はありません。水をしっかり持って山の中に入って下さい。
- ・市街地にはコンビニエンスストアやスーパーマーケットがあります。
- ・松本市の中心部の狭い範囲では、湧水が豊富に湧いています。

コース

コントロール数は50箇所。コントロール番号がそのままコントロール得点になります。

最低得点コントロール：31点 / 最高得点コントロール：134点 すべてのコントロールの得点総合計：3000点。

制限時間に間に合わなかった場合は、超過時間1秒から60秒まで20点の減点となります。その後1分超過するごとに20点ずつ減点されます。

通過証明方式

- ・地図のコントロール円の中心にフラッグとSIステーションがあります。手首に固定してあるSIチップをSIステーションに差し込むことで、電氣的に通過情報をSIチップに書き込みます。この行為を「パンチ」と呼びます。これがコントロールの通過証明となります。チームフィニッシュ後に回収したSIチップから通過情報を確認させていただきます。
- ・チームが到達したコントロールすべてにおいて、チームメンバー全員がパンチをおこなってください。チームリーダーのパンチ時刻から前後1分以内にチームメンバー全員のパンチ時刻が記録されているとき、チームがコントロールを通過したとみなします。チームメンバー全員の持つSIカードの中から一つでも通過情報がチームリーダーの記録から1分以上離れてしまった場合は、チームがコントロールを通過したことになりません。ただし器具の故障などがあった場合など、状況により都度判断させていただきます。
- ・器具が故障した場合は、必ずコントロールカードによるバックアップにより通過証明を行ってください。コントロールカードによるバックアップ記録をフィニッシュに提出できない場合は、器具故障によるコントロール不通過を救済することができません。

競技中の移動手段

- ・移動手段は歩行または走行とします。
- ・一切の乗り物は使用禁止です。

給水・給食・補給

- ・ハッシュハウス合計2箇所用意します。

会場ハッシュハウス

7月15日 12:00 - 7月16日 12:00 飲料、軽食を提供します。

会場ハッシュハウスでは、長時間の休憩も可能です。

トレイン内ハッシュハウス（1箇所）

7月15日 13:00 - 17:00 契約レストラン

ナンバーカードを見せて、競技者がその場で食べる内容をレストランメニューから注文してください。

契約レストランでの飲食費用の支払いは不要です。注文から食事が出てくるまで、少し時間がかかります。

- ・競技中に固定店舗、固定された自動販売機からの飲食物の購入は自由です。お金の携帯、利用は制限しません。

- ・給水・給食・補給が許可されるのは以下のものです。それ以外から補給をうけることは禁止します。

ハッシュハウスでの補給

固定された水源からの補給

固定店舗からの購入

固定された自動販売機からの購入

- ・禁止される補給の例

チームと並走する人、自転車、車からの補給は禁止。（サポートの禁止）

臨時に配置された水や食料を受け取ることは禁止。（先回りサポートの禁止）

禁止事項

- ・競技を中断し、無連絡で帰宅すること
- ・ホイッスルを持たずに出走すること
- ・道路交通法を無視すること
- ・競技中にゴミを捨てること
- ・防獣柵（鹿柵）のゲートを開けたまま閉めないこと。
- ・踏切のない線路を渡ること。
- ・道のない水路を横断すること。（用水路や河川の渡渉は危険）
- ・通行禁止となっているトンネルを通過すること。

- 地図上で指定されている通行禁止時間帯に、指定されている区間を通過すること。
- 金属ピン付シューズを使用すること（木道の保護）
- 競技時間を 30 分以上超過すること
- 携帯電話などの連絡手段を持たず出走すること
- 歩行または走行以外の移動手段を使用すること
- ペットなど動物を連れて競技すること
- グループ以外の者の補助を得ること
- グループが別れて行動すること
- 機器のナビゲーション補助機能を使用すること
- コントロール器具を破損させること。不必要に移動すること
- SI チップを加工すること
（いずれも救急時を除きます）

許可事項

- 防獣柵（鹿柵）のゲートを開けて通過すること。ただし、通過直後にゲートを閉めることが通過の条件です。
- 磁気コンパスと時計の使用（ナビゲーションに使うよい機器はこれだけ）

装備

各チーム必要な装備の解説

携帯電話（参加者が準備）

非常用に必ず携帯してください。十分に充電しておいてください。競技中に主催者から連絡を入れさせていただく場合があります。ただし携帯電話（スマートホン）を競技に利用することは禁止します。

受付時に携帯電話番号申告書を提出していただきます。

GPS 端末（主催者が準備）

チームに 1 個主催者から貸し出します。必ず携帯してください。ザックの上側など GPS 電波の届きそうな場所にしまっておいてください。フィニッシュで回収します。貸出から返却までの間、一切の操作を禁止します。

各メンバー必要な装備の解説

ホイッスル（参加者が準備）

緊急を知らせるために使用します。

熊鈴（参加者が準備）

山深い場所に入るときは積極的に音を出して、野生動物との接触を避けてください。

人里では熊鈴の音を止め、静粛に行動をお願いします。

ヘッドライト（参加者が準備）

ナンバーカード（主催者が準備）

服かザックなど、見え易いところに常時掲示してください。

SI チップ（主催者が準備）

受付時にチーム全員に SI チップを手首に巻いてさせていただきます。この SI チップを手首に巻き付けたまま競技を行います。巻き付けた SI チップを剥がすと、二度と巻き付けることができない構造になっています。故意に剥がした場合は失格になります。SI チップはフィニッシュ後に回収します。コントロール（目的地）に設置されたフラッグの横に SI ステーションが設置されます。このステーションに SI チップを差し込むことで、電子的に通過確認が記録されます。衣類の選択は SI チップを手首に巻き付ける前提で選定してください。

コントロールカード（主催者が準備）

地図（主催者が準備）

（デジタルカメラは必須装備品としないことになりました）

そのほか参加者に準備いただく装備

磁気コンパス、熊鈴、ファーストエイドキット、水、行動食、雨具、お金など

服装






- 濡れたり汚れたりしてもよい服と靴でご参加ください。
- イバラ道を通るルートでも破れない服装。
- 競技当日は暑くなることが予想される一方で、雨天時の深夜や標高の高いところでは気温が下がることも予想されます。
- 半裸での出走は禁止します。

地図の説明

競技参加者 1 名につき、下記の地図 5 枚を配布します。

- 全体図：1枚（サイズA3ノビタテ、縮尺1:50,000 等高線間隔10m）
全体を俯瞰することを目的とした地図。ナビゲーションでは部分図の使用を推奨します。
- 部分図：4枚（サイズA3ノビタテ、縮尺1:25,000、等高線間隔10m）
部分図同士は一部オーバーラップしています。

地図は国土地理院発行の25,000分の1地図を基本に、修正をおこなったもの。
車の通る一般主要道路は特に地図上で色を変えて追記しています。

- まとまった面積を持った立入禁止エリア （パープルの縦ハッチ）
通行禁止の道、小道 （交通量が多く歩道の無い道路）（消滅している小径）（自動車専用道路）
通行時間が限られている道の区間 （パープルの線）。禁止時間帯を日本語で記載しています。
- 地図にはコンビニ、公共トイレが主催者の判る範囲で記載されています。
- コンビニ （緑色の正方形）
公共トイレ （赤色の正方形）
- コントロール位置説明は日本語で記載しています。

磁北

- 地図の上側が磁北になるように作成しています。真北とは約7度傾いています。

通っていい場所

- 基本的には地図に書かれた道を通ってください。
- 一部のコントロールは道沿いに置かれていないものがあります。近くまでは道で移動して、近くから道を外れてコントロールに到達してください。
- 地図に書いていない道でも、明らかに通ってよい道は通行しても構いません。現場の社会常識にあわせて通行してください。
- 地図上では道があるのに、現地で通行禁止になっている場所は通らないでください。
- 地図の表現能力は有限であることを許容した競技であると理解してください。

コントロール器具の説明

コントロールに設置されている器具はすべて同じ仕様です。
器具の見本を会場に設置します。

フラッグ

- コントロールに到着するとフラッグが設置してあります。25cm×25cmで白色とオレンジ色のツートーンカラーの平面を三角柱に組み合わせた形状をしています。第43回全日本オリエンテーリング選手権大会でも使用された、オリエンテーリング競技で使用するフラッグと同一のものを使用します。
- フラッグの各面（三面）には小型の夜間反射材が取り付けられています。

SIチップの使用方法

- SIチップの使用方法に不安のあるかたは、スタート前に必ず見本を確認して、使用方法を理解してください。
- SIチップをSIステーションにある穴に入れると、SIステーションからフィードバック音（ピッピッ）が鳴ります。必ずこの音を確認してください。フィードバック音が鳴れば、SIチップに通過情報が正しく書き込まれています。SIチップをSIステーションにある穴に入れるこの行為を「パンチ」と呼びます。
- 最初のパンチ動作を行ってSIチップに記録したのち、連続して同一ステーションをパンチした場合、連続パンチ分はSIチップに記録されません。これはSIチップの仕様です。コントロールに到着したら、チームメンバー全員の最初のパンチ操作を1分の間に行ってください。
- フィードバック音が鳴らない場合は、機器が故障していると判断してください。
- SIチップを紛失した場合は実費（4000円）をいただきます。

機器が故障しているとき

- SIステーションと同じ位置に、ピンパンチ器具を設置します。機器が故障しているときは、このピンパンチ器具を使用してコントロールカードに特殊な形の穴を開けてください。指定の番号欄に正しいコントロールのピンパンチの穴が開いていることが通過の証拠となります。
- コントロールカードを使用したときは、必ずフィニッシュに提出してください。提出が無ければ、コントロールカードは使われていないものとみなします。
- ピンパンチ器具もスタート前に必ず見本を確認して、使用方法を理解してください。

交流会について

日時：2017年7月16日（日）15:00-17:00
場所：松本青年の家・食堂
形式：立食形式の食事と飲料（アルコール + ソフトドリンク）

交流会参加費用は、競技前の受付で集めさせていただきます。
交流会前に、松本青年の家の浴室を利用することができます。

第1回日本ロゲイニング選手権大会に参加するかたは、いろんな人がいます。アウトドアやエンデューロスポートの愛好家同士が交流を深め情報交換する場にしましょう。そして信州をもっと好きになってくれればありがたいです。

その他

競技中止の方針

- ・最終的にはプロデューサーが現場で判断します。
- ・競技中止の場合も参加者個別への通知は行いません。現地でのアナウンスのみとします。電話での個別の問い合わせがあったときは対応します。
- ・中止判断の基準：松本市、安曇野市に気象上の警報が発令されているとき。
- ・競技が中止になった場合でも参加費の払い戻しは行いません。

シリーズ戦対象大会

ナビゲーションゲームズ 2017 のシリーズ戦対象大会となります。本大会の結果に従ってシリーズポイントが得られます。
ナビゲーションゲームズ 2017 は公益社団法人日本オリエンテーリング協会がとりまとめるロゲイニングのシリーズ戦です。

免責事項

- ・参加者は良好な健康状態で参加してください。
- ・万一事故等が発生した場合、主催者が加入している傷害保険の範囲内及び現場での応急処置以外の責任は負いません。
- ・悪天候、自然災害の発生等により大会を中止する場合があります。その際参加費の払い戻しはできません。
- ・大会中の映像や写真をラジコ、テレビ、新聞等のメディア及び主催者ホームページ等へ使用する権利は主催者に属します。
- ・大会会場における事故や盗難等について、主催者は一切の責任を負いません。

参加資格（エントリー募集情報の再掲）

- (1) 20歳以上の健康な男女
- (2) 参加者全員がロゲイニング競技への参加経験があること
- (3) 上記(1)、(2)を満たしたうえで、下記 abcde のいずれかを満たすこと
 - a：チームの中に10時間以上のロゲイニング競技に参加したことがある者を含む。
 - b：チームの中で夜間行動を伴うロゲイニング競技に参加したことがある者を含む。
 - c：チームの中に OMM に参加したことがある者を含む。
 - d：チームの中にアドベンチャーレースに参加したことがある者を含む。
 - e：過去に100km以上のトレイルランニング大会に参加し、完走したことがある者を含む。

参加資格の考え方の基本は以下の通りです

- (1) セルフレスキューできること
自分の装備と補給に責任が持てる。
自分の体調と相談して、競技が続行できないときは競技を中断し、安全な場所まで自力で移動することができる。
- (2) ロゲイニング競技の流れを知っていること

ごあいさつ

一般社団法人 日本ロゲイニング協会
代表理事 高島和宏



全国から多くの選手にご参加いただき誠にありがとうございます。ロゲイニングが日本に上陸してから15年が経過し、本年、記念すべき第1回の選手権大会が開催できたことを非常に喜ばしく感じております。

2000年に私自身が、米国東海岸でロゲイニング競技に出会い、その魅力を日本国内にも伝えようと、当時所属していた菅平高原のクラブであるTeam 白樺のメンバーで夏合宿メニューとして2001年に開催したのが、国内のロゲイニング活動の始まりでした。その翌年の2002年には、一般からも参加できる形として大会形式にし、その後、数年間は、菅平高原での大会が唯一のロゲイニングイベントの状況であり、このような全国的な普及になるとは、当時、思いも致しませんでした。国内での普及の転機となったのは、2005年にTEAM阿闍梨主催の「奥武蔵レクレーションロゲイン」ではないかと感じております。これまで、本来の競技的なロゲイニング大会のみの開催でしたので、初心者向けではなく、初めての参加者にとって敷居が高いものでした。その後、写真を撮ることで通過証明とするなどの工夫や観光的な要素も含めた「フォトロゲイニング™」（一般社団法人日本フォトロゲイニング協会）がブームとなり、初心者でも気軽に参加できるロゲイニングイベントが数多く開催され、愛好者も年々増加してまいりました。それとともに、株式会社エバニューによる公園などを利用した「ミニロゲ™」、各地の商店街やショッピングモールが主催する「街ロゲ」等も行われるようになり、ロゲイニングの知名度向上の一翼を担って頂きました。更には、公益社団法人日本オリエンテーリング協会による「ロゲイニングシリーズ戦」(現、「Navigation Games」)により、開催される大会数の増加にもつながってきております。

このような普及が進むにつれて、本来のロゲイニング競技の側面が薄れてきているのではないかと危惧と世界選手権への参戦など国際的なロゲイニング組織との関係も視野に入れ、今回、本来のロゲイニング競技を再認識していただきたいという思いで、日本選手権を開催する運びとなった次第です。

本選手権大会開催にあたりましては、開催地の松本市を始めとして、長野県オリエンテーリング協会や関係各機関・団体の方々へ企画段階から多大なるご支援ご協力を賜りました。皆様に心からの感謝を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

第1回日本ロゲイニング選手権開催の意義

イベントプロデューサー：木村佳司

・ロゲイニング競技の歴史

ロゲイニング (Rogaining) は、長距離クロスカントリーのナビゲーションスポーツです。1976年にオーストラリア・メルボルンで行なわれたのが始まりです。世界選手権は1992年から開催され、今では毎年開催されています。主に行われている地域は、オーストラリア、カナダ、東ヨーロッパですが、近年は日本や香港でも多く開催されるようになってきました。

・日本におけるロゲイニング

日本では2002年に菅平高原で行なわれたのが最初です。最初は年に1-2回程度の開催でしたが、2007年くらいから開催数を徐々に増やしてきています。2016年には年間100イベント程度が開催されるようになりました。

日本で行われているロゲイニングは競技時間が3-6時間程度で、世界基準から見ればかなり短い競技時間となっています。また競技域も市街地中心に開催したり、観光要素を取り入れたり日本独自の発展をしています。

・今回の日本選手権の意義

日本のロゲイニングは地域観光という要素がクローズアップされていますが、核となる要素はスポーツです。日本でロゲイニング競技が発展してきている今、スポーツとしての立ち位置を確認し、「本当に強いのは誰か？」を確認する場を提供します。これを最初に開催する場として最もふさわしいと思うのが、日本の岳都・長野県松本市です。ここ5年、年間数個のロゲイニングイベントを松本市周辺で開催してきており、行政や関係者とも良好な関係を築いています。

ここでまず第1回の日本選手権を行ないます。第2回、第3回の開催地などは決まっていませんが、私たちの動きを見た方々によってより次の日本選手権が、より改善された形で開催されることでしょう。

・今後のロゲイニングの展望

今は観光主体で推進されている日本のロゲイニング競技ですが、軸となるスポーツの要素が揺らぐと変質してしまいそうです。スポーツとして重要なのは公平、公正であることです。ロゲイニングで競技の公平さを担っているのは地図とコースです。観光主導ロゲイニングはこれからも続くでしょうが、スポーツとしての軸をしっかり持ち続けることが今後の発展に必要です。そのスポーツとしての軸の中心に日本選手権がなれば良いと思っています。

主催 : 一般社団法人日本ロゲイニング協会

共催 : さわやか信州松本フェスティバル組織委員会

後援 : 松本市、一般社団法人松本観光コンベンション協会、公益社団法人日本オリエンテーリング協会

主管 : 長野県オリエンテーリング協会

問合せ : matsu@miraiz-corp.jp 080-1355-0375

第1回日本ロゲイニング選手権大会事務局 (株式会社未来園内担当: 松島 義一)
長野県松本市大字島立637-2

第一回日本ロゲイニング選手権大会競技規則 2017年6月2日 木村佳司

本競技規則は International Rogaining Federation (以下 IRF) が 2015 年 1 月 1 日に定めた Rules of Rogaining の翻訳を基本とし、第一回日本ロゲイニング選手権大会を実施するために必要な変更を行ったものである。

- Part A イン트로ダクション
- Part B 参加者規則
- Part C 主催者技術基準

Part A イン트로ダクション

- A1 A2 省略
- A3 本大会はフェアプレーの精神を軸とし、JADA (公益財団法人日本アンチドーピング機構) アンチドーピング基準に準拠する。
- A4 これらの規則の解釈および使用は、参加者、主催者、委員会および裁定委員は、常にフェアプレーの精神によって行わなければならない。
- A5 参加者は、社会ルールを遵守した前提の上に競技規則をかぶせていることを認識しなくてはならない。競技規則より社会ルールの遵守が高い優先順位となる。

Part B: 参加者のための規則

ロゲイニングは、徒歩で移動するチームのための長距離クロスカンントリーナビゲーションスポーツである。指定された時間内にコース上に配置されたコントロールを通過することで得点を得る。コントロールは任意の順序で回ることができる。

定義

「コース」とは、チームがロゲイニング競技中に移動するあらゆる場所を意味する。会場は除外する。

エントリ

- B1 チームは 2 名、3 名、4 名のメンバーで構成される。(IRF Rule と差異あり)
- B2 チームメンバーは全員 20 歳以上とする。(IRF Rule と差異あり)
- B3 競技は、チームの性別構成に基づいて、男子、女子、混合のクラスで行われる。(IRF Rule と差異あり)
- B4 チームのいかなるメンバーも、ロゲイニングコースの事前知識やロゲイニング地図の現地準備を知るために、競技運営組織に関与してはならない。

土地と財産の尊重

- B5 競技者は公的および私的財産を尊重しなければならない。
 - (a) 競技者は、主催者によって特別に許可されている場合を除き、農作地を横切ってはならない。
 - (b) 競技者は、住宅や倉庫から距離を保つことが望ましい。
 - (c) 競技者は、柵を通過するとき、細心の注意を払う。各チーム通過後は通過前と状態に戻す。(獣柵は通過後に必ず閉める)
 - (d) 競技者はごみを捨ててはならない。
 - (e) 競技者は火を使用してはならない。
 - (f) 競技者はコース上で喫煙してはならない。
 - (g) 競技者は、自然界の動植物に不当に損害を与えたり、妨げたりしてはならない。
 - (h) 会場に危険物やペットを持ち込んではならない。

競技者の行動

- B6 競技者はスタートするまでコースに立ち入ってはならない。
- B7
 - a) 競技中のナビゲーション器具は、磁気コンパス、地図、時計である。
 - b) GPS 装置、携帯電話、あらゆる種類のコンピュータ装置、歩数計および高度計を含む他のナビゲーション補助装置を携帯することは認めるが、ナビゲーション補助機能の参照は競技を中断するような緊急時に限る。これらの機能を通常の競技中に参照することは禁止する。主催者は競技者がこれらの機能を使用したかどうかを正確に判定することは難しい。競技者はスポーツマンシップに則り、機器のナビゲーション補助機能を利用しないよう努める義務を負う。(IRF Rule と差異あり)
 - c) d) (省略)
- B8 (省略)
- B9 競技者の移動手段は徒歩または走行のみである。すべての乗り物の利用を禁止する。
- B10 チームのメンバーは、コース中にいつでも互いに助けられる状態でないといけない。主催者や他のチームの要求に応じてこれを守っていることを示さなければならない。
- B11 チームは、ナンバーカードを常に見える位置に表示する義務を負う。
- B12 競技プラン中や競技中に、他の人からの援助を受けたり、他の人と協力したり、意図的に他のチームを追従することを禁止する。
- B13 (省略)

- B14 コース上で食品や用具を捨てることを禁止する。食品を購入した店舗で食品容器を回収してもらうことは認められる。
- B15 各競技者はコース中常にホイッスルを携帯する。緊急時には、競技者はホイッスルにて非常事態を知らせる。

コントロール

- B16 主催者は、コントロールで使用する電子記録装置を発行する。スタート前に電子記録装置をチームの全メンバーの手首に特殊スリットバンドで取り付ける。電子記録装置はフィニッシュ後に主催者によって回収される。
- B17
- (a) チームがコントロールを通過し得点を獲得するには、チームのすべてのメンバーが、電子記録装置を使用して、そのコントロールの通過を記録しなければならない。
 - (b) コントロールで得点するには、チームメンバー全員がチームリーダーの通過時刻前後 1 分以内にコントロール通過記録を行う必要がある。
- B18 電子記録装置を紛失した場合やリストバンドが壊れた場合、チームはイベント関係者に報告し、会場本部に戻るものとする。そうしなければ、チームは失格となる。主催者は交換用電子記録装置またはリストバンドを提供してのちチームは競技を継続することを認められる。状況及び証拠を考慮して、主催者は、電子機器の紛失又はリストバンドの破損の前に訪れたチェックポイントの得点を加算するか否かについて、主催者の裁量で判断する。
- B19 競技者は、コントロールの 100m 以内に故意に休息してはならない。ただし給水所は除く。
- B20 競技者は、コントロールやその他の主催者がコース上に配置された器具に、いたずらしてはならない。

会場

- B21 競技中に会場を訪れたすべてのチームメンバーは、ハッシュハウスに到着したとき、およびハッシュハウスを出る時に機器パンチにより到着、出発を記録する。
- B22 チームは、フィニッシュ時にステーションをチーム全員がパンチしなければならない。チームフィニッシュタイムは、チームリーダーが記録したタイムとする。ただしチームメンバーはチームリーダーの前後 1 分以内にフィニッシュパンチを行わなければならない。これはチームの義務である。一度フィニッシュしたチームはコースに戻るができない。(IRF Rule と差異あり)
- B23 競技者が何らかの理由でチームから離脱する場合は、チーム全体が会場本部に戻り、競技を終了しなくてはならない。(IRF Rule と差異あり)

罰則と抗議

- B24 これらのルール違反に対するペナルティは、ルール B17 を除き失格となる。この規則の下で失格となったチームは、失格 (DSQ) として記録される。
- B25 チームは、主催者が何らかの理由で規則を破った場合に、直ちに主催者に通知して、自発的に取消 (W/D) として記録することができる。
- B26 競技終了時刻から 45 分以内に、チームは以下を行うことができる。
- ・ルールに違反したと考えられるチームを主催者に報告。
 - ・不公平な競技会運営に対し、主催者へ書面で抗議。
- B27 主催者の決定に満足していないチームは、公式結果が公表されてから 7 日以内に、日本ロゲイニング協会に書面で異議を申し立てることができる。日本ロゲイニング協会は、それに応じて結果を修正する権限を有するものとする。これ以上の控訴は認められない。

採点

- B28 主催者のスタート合図後に、チームはスタートする。競技は主催者が指定した時刻に終了する。フィニッシュ制限時刻に遅刻したチームは、事前に主催者によって指定された割合でペナルティを科される。遅れて 30 分を超えて終了するチームは、失格とみなされ、記録は DNF となる。
- B29 チームの得点は、訪問したチェックポイントの値であり、これらのルールに従って正確に検証され、ペナルティは減点される。総合点が高いチームが上位となる。同点であれば先にフィニッシュしたチームが上位となる。
- B30
- (a) 主催者の設定したコントロールが間違っていた場合、間違ったコントロールへの通過を試みたチームすべてにコントロールの得点が与えられる。
 - (b) 主催者は、コントロールでの電子パンチ器具故障時のバックアップシステムを用意する。主催者は、イベント前に会場でバックアップシステムの見本を示す。コントロールでの電子パンチ器具が故障した場合、チームはバックアップシステムの記録を提供すると、そのコントロールの得点が与えられる。

一般

- B31 緊急信号を聞いたチームは、競技を中止し、必要な手助けをしなければならない。チームが救援活動や主催者への報告活動を行う過程で違反したルールについては、罰せられない。

Part C: 主催者の技術基準

- C1 ロゲイニング選手権大会は競技時間が 24 時間でなければならない。正午 12 時または夜の前後に開始し終了する。主催者は、自家用車以外の参加者のために、イベント会場へのオプションのバスまたは類似の輸送手段を提供することが望ましい。
- C2 コースは、優勝チームがすべてのチェックポイントではないが、ほとんどのチェックポイント通過するように設計される。

C3 (省略)

C4 各競技者には、以下を満たすイベント地図が提供される。

- a 地図縮尺は 1 : 24,000 から 1 : 64,000 の間。
- b 等高線間隔は 20m 以下。地形を読むのに適した等高線間隔である。
- c 自然光、人工光の下ではっきりと読める。
- d 磁北線、コントロールの位置、エイドステーションの場所、未調査エリアが明示されている。
- e 禁止ルートが明示されている。

C5

- a) 各チームに送られたイベントの事前情報には以下を記載する。
 - ・地図縮尺、地形の簡単な説明、スタート時刻と終了時刻、地図配布時刻、フィニッシュ遅刻時の得点ペナルティ
- b) 競技エリアに以前作成されたオリエンテーリングの地図が存在する場合、主催者はすべての競技者に提供される事前情報にその地図へのリンクを提供するか、または関連する地図をイベントウェブサイトに表示する。

C6 参加者のための規則 (パート B) の内容は、競技者に送られるイベント前情報に含まなければならない。さらに、参加者のための規則の写しは、地図が利用可能になってからイベントが終了するまで管理エリアに展示されるものとする。

C7 各競技者には、コントロールの説明のリストが提供される。説明は IRF の「**Organization a Rogaine**」マニュアルのガイドラインに従うものとする。

C8 地図、コントロールの説明、既知のマップの変更、範囲外の場所の詳細、禁止されているルートおよびその他の重要な情報は、スタート時刻の少なくとも 2 時間前に書面配布資料として提供される。直前の変更が必要なことがすべてのチームに確実に伝達するための努力を行わなければならない。直近の変更は書面にてすべての参加者に表示されなければならない。

C9 コントロールに割り当てられた識別番号をそのまま得点とする。

C10 コントロールで使用されるフラッグについて

- a 少なくとも 3 つの垂直面を有する 3 次元である。
- b 各面に最低 800 平方センチメートル。
- c 明るい色、好ましくは橙色及び白色のものであり、日中の開けた状態で少なくとも 50m の距離からはっきりと見える。

C11 各フラッグは、正しい位置へ到着した競技者が容易に見つけられるように設置される。明確な特徴物上に置かれていないか、またはチェックポイントの説明シートに示されていない限り、フラッグは、晴れた日にはおよそどの方向の距離 25m 範囲から見える。地面からの高さは 0.5m - 2m。(目の高さが望ましい) フラッグは、SI ステーションのすぐ近くに設置される。

C12 主催者が参加チームに GPS 追跡装置の装着を依頼したとき、参加チームはこれを拒絶することはできない。主催者は GPS 追跡情報を公開することができる。(IRF Rule と差異あり)

C13 競技者は、開始後 6 時間以内に、イベントの終了後少なくとも 1 時間まで、常に 1 つまたは複数の「ハッシュハウス」で適切な飲食物を入手することができなければならない。複数のハッシュハウスがある場合は、すべての時間をフルタイムで開いておく必要はないが、地図が配布されると、競技者にはそれぞれの場所で食べ物が入手できる時間が通知される。

C14 主催者は、コース上にて飲料物を購入できる施設が潤沢にあると判断したとき、給水所の設置を省略することができる。このとき飲料物購入用のお金を持ってゆくことを主催者は推奨できる。主催者は、参加者の使用のために給水所またはチェックポイントのいずれかで、食物を提供することができる。食品利用可能時間を含むそのような食事ポイントは、チェックポイントの説明シートに記載されなければならない。(IRF Rule と差異あり)

C15 男子チーム、女子チーム、混合チームの 3 つのクラスがあり、後者は少なくとも 1 人の女性と 1 人の男性を含むチームである。(IRF Rule と差異あり)

C16

- a) チームの得点は、全チームメンバーの電子記録装置の読取値に基づいて決定される。
- b) 電子パンチが使用されている場合、チームには、エラーの有無をチェックするために、通過チェックポイントの記録、ペナルティおよび最終点が提供しなければならない。間違いが見つかった場合、イベント終了後 45 分以内に主催者に申告する必要がある。
- c) 所定のチェックポイントでパンチステーションの故障があったか、またはパンチステーションが紛失していることが確認された場合は、バックアップシステムからの記録を参照する。

C17

- (a) 暫定結果は、すべてのチームがフィニッシュ後、できるだけ早く会場に表示される。
- (b) 結果には、チーム番号、チームメンバーの名前と国 (国際的なイベントの場合)、総合点、フィニッシュ時刻、すべてのチームの減点が表示される。正しく回ったチームのほかに、棄権したチーム、遅刻したチーム、失格したチームも表示される。
- (c) 抗議と提訴が解決されるまで、結果は暫定的とする。
- (d) イベントの最終結果は、専用ウェブサイト、または協会のウェブサイトに掲載されるものとする。

C18 - C20 (省略)

参照 : **International Rogaining Federation Rules of Rogaining**

<http://www.rogaining.com/attachments/article/300/IRF%20Rules%20of%20Rogaining%202015.pdf>